

< 高付加価値型農業の実践を行っている事例 >

高糖系品種やマルチ栽培で「有田みかん」の維持発展

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	和歌山県 ^{ありだし} 有田市 千田東 ^{ちだひがし}			
協定面積 78ha	田	畑 (100%) みかん	草地	採草放牧地
交付金額 894万円	個人配分			70%
	共同取組活動 (30%)			積立金 (その他) 21%
				農道・水路管理費 7%
				研修会等費 2%
協定参加者	農業者101人			

2. 取組に至る経緯

当集落は、古くから「有田みかん」のブランドで栄えた果樹経営主体の土地柄で、多くの認定農業者もいるが、急傾斜の山畑が大半を占めていることから、農地の維持管理にも相当な労力を要するため、高齢化とともに農地の管理が厳しくなっていた。

そこで集落では、集落内外の担い手農家と連携して、認定農業者を中心とした農地の流動化による省力営農体制の確立を基本に、高付加価値型農業を目指すこととした。

3. 取組の内容

生産性・収益性の向上を図るため、温州みかんの優良系統（ゆら早生等）への改植、高糖度化に向けたマルチ栽培に取り組んだことから、新たに5人の認定農業者が育成され、集落の認定農業者は25人となった。さらに、卸売市場から青果会社の社員を呼んでのマーケティングの研修会を開くなど、有田みかんブランドの維持・発展による他産業並みの労働時間と所得の実現に向け、集落全体で工夫を重ねている。



優良品種「ゆら早生」への改植園



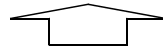
高品質みかんの生産に向けたマルチ栽培



仲卸の青果会社を招いた研修会

[集落の将来像]

温州みかんの優良系統への改植やマルチ栽培への取り組みを一層推進し、担い手と位置づけられる認定農業者の更なる増加及び農道の舗装、水路改修等の整備強化がなされた集落。

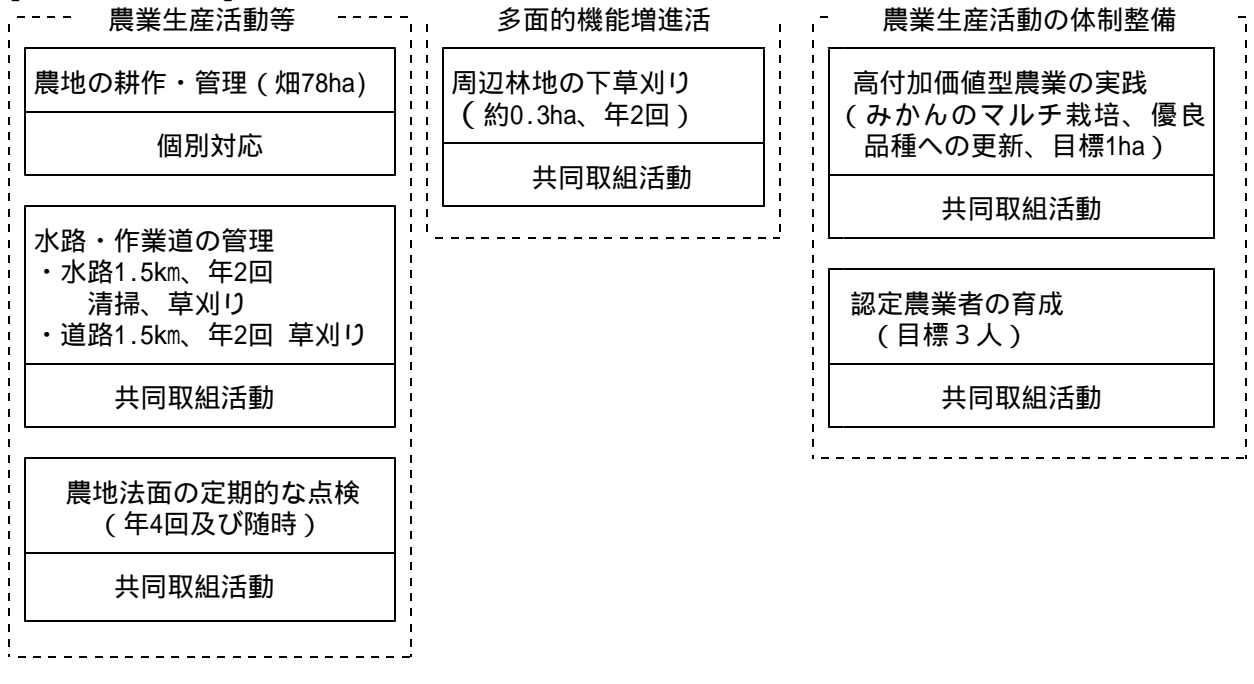


[将来像を実現するための活動目標]

「有田みかん」ブランド維持・発展のため、温州みかん、中晩柑の高品質化の推進により、収益の向上を目指す。

農業従事者の高齢化、後継者不足等、今後の農業生産活動は厳しくなる現状を踏まえ、近隣集落との有機的連携により、安定的かつ持続的な農業生産活動体制の確立を目指す。

[活 動 内 容]



集落外及び、集落内非農家との連携

当集落だけでは農地の保持が難しい状況になると見込まれる場合には、近隣集落と連携を図りながら、賃借権接待や農作業の委託を斡旋する。
伝統行事(祭り等)を開催することで、非農家を含めた集落内全体の協調性と共同体制を確立し、住みよい農村社会を構築する。

4 . 取組による変化と今後の課題等

取組により、集落協定等の取り決めや共同活動の場で、参加者から今まで以上に活発な意見交換等がなされ、目標とする集落の将来像に近づけているものとする。

[平成20年度までの主な効果]

認定農業者の増加育成 (目標3人、H20実績5人)

高付加価値型農業の実践としてみかんのマルチ栽培、優良品種「ゆら早生」等への更新 (当初0ha、目標1ha、H20実績2.5ha)

農道舗装、水路改修 (5カ年計画、20年度実績農道舗装0.4km、水路改修30m)